

30E06-am02

角膜炎患者から分離されたアカントアメーバに対する抗真菌薬およびクロルヘキシジンの有効性

○中南 秀将¹, 野口 雅久¹, 笹津 備規¹(¹東京薬大薬・病原微生物)

【目的】アカントアメーバ角膜炎は、コンタクトレンズを介した難治性の感染症として知られている。現行の治療法として、抗真菌薬やピグアナイド系消毒薬であるクロルヘキシジンの局所投与が挙げられる。しかし、これらの薬剤の有効性は証明されておらず、有効な治療法は確立されていない。本研究では、臨床分離アカントアメーバの *in vitro* における各種薬剤の有効性について研究した。

【方法】2009年に、北里大学病院でアカントアメーバ角膜炎と診断された患者3名の眼から分離された *Acanthamoeba* spp. 3株を使用した。薬剤感受性試験の標準株として、アカントアメーバ角膜炎の主な病原体である *Acanthamoeba castellanii* ATCC30010株を使用した。アカントアメーバ種は、18S rRNA 遺伝子配列から同定した。薬剤感受性は、50%および90%増殖阻止濃度から判定した。

【結果と考察】薬剤を5日または7日間暴露し、各薬剤の効果を測定したところ、アゾール系およびポリエン系抗真菌薬、抗原虫薬であるパロモマイシン、抗菌薬であるスルファメトキサゾール、クロルヘキシジンは、アカントアメーバの増殖を抑制した。一方、キャンディン系抗真菌薬に増殖抑制効果は認められなかった。そこで、薬剤の暴露時間を12時間に短縮し、*in vivo* に近い条件で薬剤の効果を測定した。その結果、ポリエン系抗真菌薬およびクロルヘキシジンは、短時間の薬剤暴露でもアカントアメーバの増殖を抑制した。本研究から、ポリエン系抗真菌薬およびクロルヘキシジンは、アカントアメーバ角膜炎の治療に有効であることが強く示唆された。

会員外共同研究者：小貫 智世（北里大学病院細菌検査室）、田沼 健太郎、梅澤 貴志（東京薬大・病原微生物）